

山口県感染症発生週報

(第52週:平成23年12月26日～24年1月1日)

1 全数把握感染症

【2類感染症】

◆**結核**: 第49週追加:1例(岩国)。第50週追加:2例(岩国、防府)。第51週追加:1例(岩国)。第52週:5例(下関1例、岩国4例)。



2 定点把握感染症(5類感染症)

(1)特記事項

- ◆**インフルエンザ**: 患者報告数は528例でした。すべての地域から報告がありますが、特に周南からの報告が目立ち、今週警報レベルになりました。迅速検査では、A型陽性473例、B型陽性2例、A型B型陽性1例、臨床診断52例でした。また当所では、宇部市の検体について検査を行い、PCR法によりB型が検出されています。【警報レベル=周南(新)】※
- ◆**RSウイルス感染症**: すべての地域から患者発生報告があり、特に周南からの報告が目立ちます。流行時期ですので注意が必要です。
- ◆**感染性胃腸炎**: 長門、周南、山口では警報レベルが続いています。また、下関も多い状況です。今後さらに増加する可能性がありますので引き続き注意が必要です。【警報レベル=長門(6週目)、周南(11週目)、山口(8週目)】※
- ◆**水痘**: 先週よりさらに増加しており、今週県全体の定点あたりの報告数が注意報レベルの4.0を上回りました。長門、山口につづき、周南においても警報レベルとなりました。また、下関も注意報レベルです。【警報レベル=長門(4週目)、周南(新)、山口(3週目)】【注意報レベル=下関(2週目)】※
- ◆**流行性耳下腺炎**: 長門は警報レベルが続いています。【警報レベル=長門(4週目)】※
- ◆**流行性角結膜炎**: 柳井は警報レベルとなりました。【警報レベル=柳井(新)】※
- ◆**細菌性髄膜炎**: 宇部から1例報告がありました。患者は80代で原因病原体は不明です。
- ◆**マイコプラズマ肺炎**: 報告数は8例でした。全国的にやや減少傾向がみられていますが依然として例年と比較してかなり多い状況ですので引き続き注意が必要です。

※警報レベル・注意報レベルの基準値詳細についてはHPをご覧ください。
<http://kanpoken.pref.yamaguchi.lg.jp/jyoho/report2011/keihotyuuuiho.php>

(2)週別発生状況

疾患名	50週	51週	52週	疾患名	50週	51週	52週
インフルエンザ	291	553	528	百日咳	0	1	0
RSウイルス感染症	72	116	94	ヘルパンギーナ	3	4	0
咽頭結膜熱	9	5	7	流行性耳下腺炎	37	39	39
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	163	158	78	急性出血性結膜炎	0	0	0
感染性胃腸炎	538	657	475	流行性角結膜炎	10	13	8
水痘	181	176	194	クラミジア肺炎	0	0	0
手足口病	9	9	3	細菌性髄膜炎	0	0	1
伝染性紅斑	28	17	9	マイコプラズマ肺炎	7	11	9
突発性発しん	42	30	31	無菌性髄膜炎	0	0	0

(3)地域別発生状況

疾患名	下関	岩国	柳井	周南	防府	山口	宇部	長門	萩	全体
インフルエンザ	25	21	19	342	9	46	55	2	9	528
RSウイルス感染症	20	7	6	38	7	5	8	2	1	94
咽頭結膜熱	0	2	1	1	1	0	1	0	1	7
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13	6	8	19	1	8	10	10	3	78
感染性胃腸炎	133	30	20	98	15	61	46	52	20	475
水痘	54	7	4	70	7	24	7	21	0	194
手足口病	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3
伝染性紅斑	2	1	2	2	0	0	2	0	0	9
突発性発しん	9	2	2	5	4	5	2	2	0	31
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎	11	5	0	5	4	0	0	14	0	39
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0	0	8	0	0	0	0	0	0	8
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
マイコプラズマ肺炎	0	1	0	7	0	1	0	0	0	9
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※平成24年1月10日、1月31日にデータの修正がありましたので、一部修正しました。